

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

6

福岡県立行橋高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	創造性豊かな人間として、明るく主体的にたくましく生きる、実践力を持った産業人を育成する。			B
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	B	
・計画的な研修により観点別学習状況の評価やICTを活用した授業改善を推進することができた。 ・地域連携の充実による体験活動を通じた学びや学校行事の取組を生徒の成長に繋げることができた。 ・生徒が目標の実現に向けて主体的に取り組む「学びに向かう力」の育成が課題である。	一人一人の生徒を大切に教育活動の推進	人権意識を高め、お互いを尊重し、多様性を認め合える学校づくりを実践する。		
	自ら主体的に考え、行動できる生徒の育成	自己の目標を定め、意欲的に学び、実現に向けて努力できる生徒を育成する。		
	個々の進路保障に向けた確かな学力の育成	授業の工夫改善に努め、分かる授業、魅力ある授業による基礎基本の徹底に努める。		
	施設・設備等の教育環境の整備	施設・設備の点検・維持・補修等に努め、安心・安全な教育環境づくりに努める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
確かな学力の育成 授業改善・研修	(向上心) 基礎力を高め、学びへ向かう態度を養う。	授業と評価の一体化を意識し、定期的に授業について振り返る機会をもち、授業の工夫・改善を図る。	B	基礎・基本の定着を第一の目標にし、各教科・学科で各自の授業改善をはかる機会を設ける。個別最適な学びがより実施できるよう、研修等をうまく取り入れていく。
		生徒一人一人に目を向け、ICTを活用し、個別最適な学びができる機会を多く提供し、生徒の基礎力と学びへ向かう意識の向上を図る。	B	
		授業研修を相互に行える機会や職員研修を計画的に行い、生徒の基礎力が確実に定着する授業づくりを組織的に実施する。	B	
たくましく生きるための 生徒指導	(社会性) 地域とのかかわりを通じて、社会人としての資質を高める。	学年間・学科間連携を強化するとともに、面談週間や家庭訪問を実施し生徒一人一人の規範意識の向上を図る。	B	日頃からの生徒指導を心掛け、規範意識の向上、生徒一人一人を大切する人権意識の向上につなげ、安心安全な学校づくりを構築する。
		学科の特色を明確にし、地域とかかわり、社会性の醸成を図るとともに、自己表現を向上させる。	A	
		生徒一人一人の人権意識を高め、お互いを尊重し、多様性を認め合えるクラスづくり・人間関係づくりを実践する。	C	
キャリア教育の充実 進路指導	(主体性) 自ら主体的に考え、行動できる生徒の育成。	放課後に外部講師を招き、職業理解講座を実施することで、進路への意欲の向上と視野を広げ、主体的に進路決定できる生徒を育てる。	B	昨年からはじめた「お仕事の話」を来年度は、講座を増やし、生徒の早期進路意識の開拓や進路実現への希望につなげるような企画としていきたい。
		進路決定率100%を目指すため、教員向けの小論文指導講座、早期の志望動機作成講座などを実施する。	B	
		中学校への広報活動を行うことによって、進路などの情報を提供する。地域やPTA活動を積極的に参加する。	B	
生徒の主体性を養う 自主活動	(協調性) 生徒自らが考え協力し合うことで各活動の活性化を図る。	各学科の特色を生かし、地域と連携した取り組みを行い、地域に愛される生徒を育てる。	A	さらに、専門高校の強みである学科の特色を最大限に生かし、1年生から基礎科目を大切に、地域に根差した取り組みを実践していく。
		部活動をとらえて、自主性、責任感、母校愛を育成し、学校の活性化を図る。	B	
		行事等で生徒の活躍できる取り組みを充実させ、自ら主体的に考え、行動できる生徒の育成を行う。	B	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
B	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや適切である
	D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	観点別評価やICT活用といった新たな取り組みに対応するため、教員が試行錯誤しながら授業改善を継続している。また、面談期間を設けて、生徒一人一人に目を向けた指導を行っている。調査は学期に1回ではなく、元に戻してほしい。
	校則の見直しにおいて、生徒会に意見を聞いたり、見直された校則の適用範囲を生徒自身に考えさせることで、生徒の規範意識の向上を図っている。今後の地域とのかかわりを通じた社会性の向上に期待したい。
	上級学校訪問、進路バスツアーの他、放課後に職業理解のための講座を設け、生徒のキャリア形成の支援を積極的に行っている。また、進路希望が決まらない生徒に個別指導を行っている。
B	課題研究において、学科の特色を生かし、地域とかかわりながら、社会課題の解決に取り組んでいる。今後の学科間連携の取り組みによるシナジーに期待したい。
	評価項目以外のものに関する意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・学期の1度の考査となり、より教科の単元ごと的小テストや実技評価等を行い、よりきめ細かな指導と評価を行っていく。
- ・課題研究発表については、地域と密着した課題を発見し、内容の精査をおこない、研究成果を地域へ還元していく。また、来年度の発表会は、質疑応答を取り入れ、発表会の活性化を図る。
- ・進路指導課の「お仕事の話」については、PTA、卒業生、関係機関等を職業人(講師)としてお招きし、生徒の進路意識の向上につなげていく。

- ・特色化選抜の実施がよい成果につながることを期待したい。
- ・120周年記念式典・行事等に参加させてもらったが、学校も綺麗に保たれ、保護者との連携もとれ、行橋高校の良さを感じた。